都道府県名 石川県

# 学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	押水町立押水中学校					
学 年	1年	2年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	1 0	
生徒数	8 3	9 1	8 3	1	2 5 8	1 9

### 研究の概要

### 1.研究主題

基礎・基本を確かに身につけ、自ら学び自ら考える生徒の育成

# 2.研究内容と方法

- (1) 実施学年・教科
  - ・2年生・数学

生徒の理解の状況に差が出やすい教科,学年であり,その基礎・基本の研究 に対して,環境が整っているため。

・3年生・数学・理科

受検もひかえ,基礎・基本を大切にする学年であり,昨年度少人数実施学年 でもあることから,継続して研究に取り組み,これまでの研究成果と生徒に対 する実態調査を研究するため。

## (2) 年次ごとの計画

# 成 15

年

度

「数学科」,「理科」において,少人数授業や習熟度別学習などに取り組む ことで、きめ細かい指導を行い、基礎・基本の定着に向けた支援・指導を 行う。また,習熟度別授業や課題別学習の効果的な方法について研究する。

#### 研究の見通し

- ・個々の生徒理解にもとづいて「基礎・基本」の定着をめざし,習熟度別授 業・課題別学習などを通して、わかりやすい授業を展開し、適切な評価を することで,基礎・基本が定着し,個々の力量が高まっていき,生徒自ら が主体性をもって行動できるであろう。
- ・課題意識を育て、自ら解決する力を支援しつつ、個に応じた適切な評価を することで,自信を持ち主体的に行動できる力が高まるであろう。
- ・基礎基本の定着をもとに、さらに発展学習につなげ、生徒の学習意欲を高 める。また、学校、家庭・地域の役割を明確にして基礎学力の向上の取り 組みへの協力を得つつ,基本的な生活習慣の確立と,家庭学習の充実など のサポートをすることで,個々に力量がつき,生徒自らがよく考え,進ん で学習し、問題解決能力を高めることができるであろう。

# 研究の内容・方法

- ・全職員できめ細かな指導の工夫・改善に取り組み,学力の向上を図る。
- ・少人数習熟度別学習の成果を,他教科の指導法改善につなげる。
- ・評価方法,評価規準について研究する。
- ・選択教科では履修幅を広げて,生徒の興味関心を高め,内容の深化を図る。
- ・生徒の自ら学び、自ら考える力を高めるための取り組みを実践する。

# 亚

亚 成 年

### テーマ

平成15年度に引き続き,「数学科」,「理科」,において,少人数授業や習 16|熟度別学習などに継続して取り組み,きめ細かい指導や基礎・基本の定着に 向けた支援・指導を行う。また、全職員できめ細かな指導法の工夫改善に取 度 り組み,学力向上を図る。

### 研究の見通し

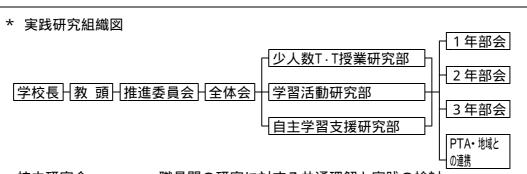
平成15年度から引き続き,以下を研究の見通しとする。

- ・個々の生徒理解にもとづいて「基礎・基本」の定着をめざし,習熟度別授 業・課題別学習などを通して,わかりやすい授業を展開し,適切な評価を することで,基礎・基本が定着し,個々の力量が高まっていき,生徒自ら が主体性をもって行動できるであろう。
- ・基礎基本の定着をもとに、さらに発展学習につなげ、生徒の学習意欲を高 める。また,学校,家庭・地域の役割を明確にして基礎学力の向上の取り 組みへの協力を得つつ、基本的な生活習慣の確立と、家庭学習の充実など のサポートをすることで、個々に力量がつき、生徒自らがよく考え、進ん で学習し,問題解決能力を高めることができるであろう。

研究の内容・方法

- ・数学科と理科において、習熟度別の学習グル・プを編制し、指導法や指導 教材を開発する。
- ・少人数習熟度別学習の成果を,他教科の指導法改善につなげる。
- ・評価方法,評価規準について研究し,他教科においても,数学科・理科に おける成果を参考にして, T・T, 習熟度別, 課題別, 小グル・プ等の多 様な指導法を研究する。
- ・選択教科では履修幅を広げ,さらに,効果的な補充学習と発展学習の在り 方を探求する。生徒の興味関心を高め,内容の深化を図る。
- ・生徒の自ら学び,自ら考える力を高めるため,多様な指導法に有効な教材 やワ・クシ・トの開発に積極的に取り組む。

### (3) 研究推進体制



・校内研究会 職員間の研究に対する共通理解と実践の検討

研究の全体構想づくりと研究推進の連絡調整 ・推進委員会

習熟度別授業・課題別学習など学力向上のための授業の ・少人数T・T授業 研究部 工夫改善

授業研究,評価,発展学習の教材開発などの取り組み等 ・学習活動研究部

・自主学習支援研究部 朝自習,講座,自学等,自主学習の援助・支援・工夫 各研究部の立案に基づく実践,評価・PTA,地域との連携

各研究部の立案に基づく地域とのタイアップ

・各学年部会

### 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

### 1.研究の成果

- ・少人数授業では,個別に指導が行きわたり,基本的な内容が理解され,生徒は 学ぶ方法を身につけ,一斉授業より学習に向かう姿勢が積極的になっていった。 また,進んで話し合いに参加できるようになり,「わかった」「できた」「これ を教えて」という発言も聞かれるようになった。
- ・少人数授業では、課題や発表の企画段階から、生徒一人ひとりが考えたものを生かすように教師が支援し、生徒主体の授業や活動づくりを進めてきたので、 発表に少しずつ生徒が前面に出るようになり、普段、発言の少ない生徒も意欲的に発表したりしてきた。
- ・数学科少人数授業においての自己評価表では、「今日の授業内容はわかりましたか?」という項目で、1学期では、A.よくわかった 5.7% B.だいたいわかった 2.3%であったが、2学期では、A.よくわかった 6.6% B.だいたいわかった 2.9%であった。1時間単位での理解は少しずつできていると考えられる。
- ・研究授業の整理会においても、「参観メモ」に沿ってやった結果、授業を振り返る視点がわかりやすくなり、能率よく、かつ、効果的に行うことができた。
- ・学校・家庭・地域の役割を明確にしながら,自主学習支援研究部からの「学習通信」の発刊などにより基礎学力の向上の取り組みへの理解を得つつ,基本的な生活習慣の確立と家庭学習の充実を促した。それより,生徒自らの課題(自学ノートなど)の提出状況においては,各クラス・各学年ともに概ね良好な結果となった。また,自学ノートは毎日点検しアドバイスをしていく中で,学習のポイントを要領よく学習できる生徒がだんだんと見られるようになり,テストに対しての関心,意識(点数,順位)も高まってきた。

## 2. 今後の課題

- ・生徒は,自ら課題に取り組み,自分の役割を意欲的にこなし,その役目をだんだんと果たしてきたが,逆に個別指導が増えたので,教師に頼る生徒が出てきたり,学習を理解できても,学習が定着しない状況が出てきた。このため,今後はより効果的にその個人にあった指導のしかたや技法を研究していかなければならない。
- ・自主学習支援研究部からの「学習通信」など、基礎学力の向上の取り組みへの 理解を得つつ、基本的な生活習慣の確立と、家庭学習の充実を促したが、まだ まだ家庭学習が不足しており、積極的な取り組みに少し欠ける生徒が見うけら れるため、より一層のきめ細かな生徒理解と手だての工夫が必要である。
- ・少人数授業では,個別に指導が行きわたり,基本的な内容が理解され,生徒は 学ぶ方法を身につけていったが,担当教師の変更をしなくてもよいか,また, するとすればどのようにしたらよいか検討していかなければならない。

# 学力把握のための学校としての取組

- ・朝自習では,基礎・基本の定着を図り,生徒の学習意欲を高めるため,1,2 年生ではプリント学習(5教科の基礎,発展問題)で,3年生では講座学習で 自己採点 提出 点検を行い,提出状況や,成績の変化等を見ている。
- ・家庭学習では,生徒が自ら学び,自ら考える力を高めるため,1,2年生では 自主学習ノート(1ページ)を行い,提出状況や,成績の変化等を見ている。 また,3年生では,講座学習(5教科の基礎,発展問題)を行い,家庭学習の

定着を図るとともに,提出状況や,成績の変化等を見ている。

- ・教育相談では,定期的に各学期の定期テスト1週間前に行ない,その都度,担任,教科担任より支援,指導を図り,学習意識を高めている。
- ・定期テスト1週間前に,全学年で週間学習計画表の作成(目標,反省)を行い, 提出状況や,成績の変化等を見て,また,それをもとに教育相談を行う。
- ・夏休みの学習課題について,夏休み中の学習の様子を調査し,2学期の学習の 示唆とするため,アンケート調査の実施をおこなう。
- ・学習(授業,家庭学習,テスト)についての内容を「学習通信」として発刊し, 家庭での勉強・生活等で,家庭へ協力,理解を図る。
- ・少人数授業等において自己評価表を毎時間とり,個々の生徒の変容をとらえる。
- ・集中力など高めるため、奇数月に朝読書(自分の興味のあるものを読む)に取り組み、その活動のようすを観察する。

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成15年11月20日に,フロンティアスクール中間研究発表会を行い,この研究成果の普及をした。さらに,平成16年10月8日(金)にフロンティアスクール研究発表会及び奈良教育大学教授重松敬一先生の講演会を開催し,研究成果普及の活動を行う予定である。
- ・平成15年11月20日に,フロンティアスクール中間研究発表会にともない,研究報告書を作成し,実績報告を行った。さらに,平成16年1月には,この1年間のフロンティアスクール研究紀要を作成し,実績報告を行った。
- ・郡教育研究会,町教育研究会等を有効に活用し,フロンティアティーチャーとして,研究成果普及の活動を郡内,または町内に行う予定である。

次の項目ごとに,該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 ・ 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4~6学級

7~9学級・ 10~12学級13~15学級16学級以上

【指導体制】 ・ 少人数指導 ・ T.Tによる指導

その他

【研究教科】 国語 社会 ・ 数学 ・ 理科

・ 外国語 音楽 美術 技術・家庭

保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】・・有・無無